

## 塩江温泉郷観光活性化基本構想（仮称）【案】についてのパブリックコメント実施結果

本市では、平成29年2月27日から3月15日までの間、「塩江温泉郷観光活性化基本構想（仮称）【案】」（以下「本構想」といいます。）についてのパブリックコメントを実施しました。いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を、以下のとおり公表します。

- 1 意見総数 7件（3人）
- 2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方  
 ※提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化若しくは文言等の修正をしています。

御意見（要旨）	市の考え方
<b>【塩江温泉郷の現状と課題（2章）】</b>	
<p>塩江温泉ではこれまでも様々なイベントや誘客事業が行われてきたが、その結果を振り返り、成功したのか、失敗だったのか、その要因を考えずに新たな誘客を考えても意味がない。</p> <p>例えばほたる祭りやもみじ祭りなどの来場者数の推移、バスで自転車を運んだりする事業や空港利用者呼び込み事業などがあったが、それはどうなったのか。</p>	<p>本構想の策定につきましては、観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に的確に対応しながら、塩江温泉郷の活性化を図るための指針を定めるものです。そこで、本構想（案）では、関東・近畿等に在住の消費者へのアンケート調査や、塩江温泉郷内外の関係者が参加した意見交換会の実施などにより、客観的な視点から、塩江温泉郷の現状と課題を整理しています。個別の事業に対する振り返りは、本構想の趣旨からは外れますが、可能な限り、これまでの経緯と現状を踏まえて、課題の抽出を行っております。</p>
<p>塩江地区には駐車場の不足（特にイベント時）、核となる観光地が無く周遊性もない、宿泊施設の減少、道の駅が狭い、などの問題がある。まずはその解決が先ではないか。</p>	<p>また、ハード面の課題につきましては、本構想（案）において、行政が、宿泊・飲食など全ての民間観光施設に波及する「集客の補完」を行うことで、民間投資が促進されるとの認識の下、塩江地域の強みを活かした集客の仕掛けづくりを検討することとしております。</p>
<b>【具体的な施策アイデア（4章）】</b>	
<p>現状でも多くの方が自転車で塩江を訪れているが、その多くは国道を通っている。県が管理している香東川自転車道を香川町の終点から塩江まで旧温泉鉄道跡を利用して延長し、高松市内から快適に走らせて来られるように整備・広報すべき。</p> <p>また、道の駅の電動アシスト自転車貸し出しを積極的に広報して、内場ダム方面などへも行くことをアピールすべき。</p>	<p>本構想（案）では、山間部に位置する塩江の豊かな自然を活かし、サイクリスト受入環境の整備を検討するとしています。自転車道の整備は、用地の取得など、種々の課題がありますが、いただいた御意見の趣旨も踏まえ、民間との協働の中で、サイクリスト・ライダーに支持されるような環境づくりを検討してまいりたいと存じます。</p> <p>また、道の駅のレンタサイクルに関しては、これまでも指定管理者を通じて広報に努めてきた</p>

	<p>ところですが、いただいた御意見の趣旨を踏まえ、引き続き、効果的な広報に努めてまいりたいと存じます。</p>
<p>グランピングは運営側の手間がかかるキャンプで、首都圏や関西圏と違い香川でどれだけ需要があるのかも不明。利用者が少なければ赤字の危険も高くなる。それよりも、現在の奥の湯やいこいの森のキャンプ場をオートキャンプ対応に整備し、NPOと共に自然観察イベントなども開催することによる誘客が良いのではないかと存じます。</p> <p>また、大滝山周辺のハイキングルートも崩壊箇所を修復したり、竜王山の登山客を増やしたりすることも必要。</p> <p>また、道の駅の裏で水遊びをしているが、決してきれいとは言えない。もっと安全に綺麗に水遊びができる場所を紹介したり、紅葉スポットを紹介したりする工夫が必要。</p>	<p>奥の湯公園に新たな付加価値を生み出し、奥の湯エリアの賑わい創出につながる取組として、グランピングイベントの実施を検討することとしていますが、事業の実行にあたっては、いただいた御意見の趣旨を踏まえ、事業者の創意工夫、NPO等との協働により、効果的なイベントとなるよう検討してまいりたいと存じます。</p> <p>また、登山・水遊び等のアクティビティにつきましても、本構想（案）で掲げる基本方針（ビジョン）に基づき、いただいた御意見の趣旨も踏まえ、検討してまいりたいと存じます。</p>
<p><b>【市観光関連施設のあり方整理（４章）】</b></p>	
<p>奥の湯は、竜王山や大滝山などの登山の帰路に、疲れを癒すのに最適であったが、閉鎖となり当該地区の山歩きの魅力が半減してしまっただけでなく、周辺地域の観光客も減少している。</p> <p>行基の湯を含めて、この二つの核施設が休業（閉鎖）していて、再開も未定という状況で活性化を議論するのはあまりに間が悪い。この二つの方向性が見えなければ、活性化の方向も全く違う。</p>	<p>本構想（案）にも記載しておりますとおり、奥の湯温泉は、施設の老朽化のため、平成29年3月末をもって閉館の予定です。このような中、塩江温泉郷全体の魅力を高めるためには、個々の施設とは別に、集客の中核となる「場」が必要であり、行政には、民間との役割分担の中で、歴史ある温泉資源を活かしながら、宿泊・飲食など全ての民間観光施設に波及する「集客の補完」を行うことが求められていると認識しています。</p>
<p>この構想案では、奥の湯温泉施設の廃止が前提となっているが、奥の湯温泉は、上西地区に立替え存続すべきと考える。</p>	<p>本構想（案）では、そのためのハード整備について、「道の駅エリア」と「奥の湯エリア」でそれぞれ特性を活かす考えや、温泉や自然といった資源を「体験」する要素を軸とする考えなどを示しておりますが、今後、構想を具体化する中で、幅広い知見とノウハウを活用するため、外部有識者も交え、検討を進めてまいりたいと存じます。</p>
<p>奥の湯温泉などの廃業により、塩江の歴史は忘れ去られようとしている。今一度、塩江の歴史のすごさ、温泉町しおのえを未来に繋ぐためにも、また塩江の歴史と文化を守り続け、次から次へと衰退していくより良き温泉施設の早急なる復活を支持し、併せて塩江関係のDVDの作成、放映、販売促進を図る。</p>	